

## 平成25年度 第1回広報・広聴委員会会議報告

**日時** 平成25年5月22日（水）午後1時～15時30分  
**場所** 寒川総合図書館 会議室  
**出席者** 小島委員長、相京、櫛原、谷岡委員、  
高木（事務局）  
（欠席） 五島、伊藤委員

○開会あいさつ（小島委員長）

○自己紹介（各自）

○委員会規則について

・会則における委員会設置の根拠、委員会運営要領などについて説明した。

○副委員長選出

・互選により相京委員と決まった。

○報告・協議

（1）報告

**a 会誌『記録と史料』第23号について**

- ・事務局より印刷、発送事務などの経緯を説明した。
- ・白井哲哉氏のICAブリスベン大会参加記の原稿について、差し替えが生じた件につき、経緯、対処方法などについて説明した。

**b 会報第93号について**

- ・事務局より印刷、発送事務などの状況を説明した。

**c 全史料協の組織体制について**

- ・全史料協の役員名簿をもとに、25年度の体制について説明した。

**d 全史料協ホームページについて**

- ・随時更新中である。サーバの契約は4月末日に更新した。

**e 平成25年度全史料協大会について**

- ・大会・研修委員会より、大会当日の運営の手伝いを各委員会委員にお願いしたい旨の打診があった。これについては具体的な要請があった時点で、どこまで協力が可能か判断することになった。

（2）協議

**a 平成24年度事業結果報告・決算報告について**

- ・会長事務局に報告済みで、6月7日の役員会で承認を受ける予定である。
- ・不用額が最も大きいのは旅費だが、これは額面上の予算額と執行予定額の調整分として計上していたものであり、執行予定額の枠内ではほぼ予算どおりに執行している。

**b 平成25年度事業計画について**

- ・予算は24年度の実績に沿って、ほぼ同様の事業が展開できるよう確保した。
- ・会議の2回目は、藤沢市文書館で開催することになった。
- ・会議の3回目は、東京大会の開催中に実施することになったが、大会・研修委員会からどのような応援要請が来るかによって、日程を検討する必要がある。

#### c 平成25年度予算について

- ・24年度に導入された執行限度額という考え方は実施せず、額面の予算額どおりに執行していくことになった。
- ・事業は24年度とほぼ同じように実施するため、予算額の大きな変動はない。通信運搬費のうち電話代の計上を24年の実態にあわせて減額し、その分を印刷製本費に積み増した程度である。
- ・26年度予算を組む際は、事務局移転にともなう荷物の輸送賃を計上し忘れないようにとの意見が出た。

#### d 会報第94号の編集

- ・12頁で構成する。予算の関係から、表紙は1色刷りとなってしまう。
- ・次のようなスケジュールで進行する。
  - 構成決定：6月中旬、原稿依頼：6月下旬、原稿締切：8月上旬、発行：9月末日
- ・2月に岡山で開かれた専門職セミナーのレポートを3ページで考えているが、ほかに組織問題検討アンケートの集計結果や、臨時委員会の総括など、他委員会等と相談しながら、最もタイムリーな記事を掲載していく。
- ・編集後記の執筆は相京副委員長とする。

#### e 会誌『記録と史料』第24号の編集

- ・今のところ、書き手の意思を確認できているのは、「アーキビストの眼」の1本だけである。引き続き情報収集を続け、8月の会議で骨子を決めてしまう必要がある。各自情報収集を続け、アイデアが浮かんだらメーリングリストに流すよう申し合わせた。
- ・表紙にも奥付にも誌名『記録と史料』とあるだけで、全史料協の会誌である旨の記載が見あたらない。24号から何らかの工夫が必要なのではないか。

### ○その他

#### a 次回開催場所と日時

- ・藤沢市文書館で開催することになった。8月5日から13日の間で各委員の都合を調整する。

#### b その他報告事項

- ・会誌第22号の三輪宗弘氏・折田悦郎氏の原稿を九州大学リポジトリに載せたいとの依頼が昨春にあった。これに対し、刊行後1年は配慮してほしいと頼んだ経過があった。このたび1年経過したので掲載したとの連絡があった。